

～ちょっと気になる感染症～



咽頭結膜熱について

◆ 咽頭結膜熱とは

アデノウイルスによって起こる感染症です。特に5歳以下の子どもに多く、年間を通して発生しますが、夏にピークを迎えます。学校のプールなどで集団感染が見られ、プール熱とも呼ばれます。

◆ 症状について

潜伏期間：5～7日

発熱、のどの痛み、結膜炎（充血、痛み、目やになど）が起こります。目の症状は、片方から始まり、その後他方にも出ることが多いです。3～5日間症状が続きますが、通常目に永続的な障害を残すことはありません。

生後14日以内の赤ちゃんは、全身性感染を起こしやすいため、重症化するリスクが高く、注意が必要です。

◆ 感染経路について

飛沫、接触（ウイルスが付着した手で口や目に触れる）によって感染します。

タオルの共有や、患者が目や顔を触った手で触れた物を介して感染が広がります。

プールでは、適切に消毒されていない水が目に入ることで感染します。

◆ 治療について

咽頭結膜熱に特効薬はなく、特別な治療方法もありません。症状に応じた治療になります。

◆ 予防について

○うがい、流水と石けんによる手洗いをしましょう。

○タオルの共有をしないようにしましょう。

○アルコールによる消毒は効果がありません。物の消毒には、次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使いましょう。金属など腐食しやすいものは、消毒後、水拭きをしましょう。

○咽頭結膜熱のワクチンはありません。

◆ 学校保健安全法における取り扱い

咽頭結膜熱は、学校保健安全法における第二種の感染症に規定されており、発熱、咽頭炎、結膜炎など、主要症状が消失した後2日を経過するまで出席停止とされています。